

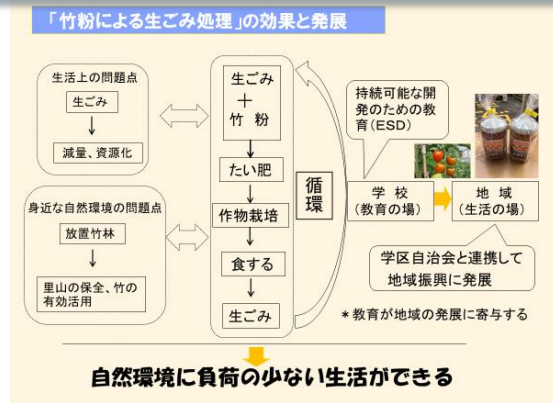
静岡市環境大学2019 講座報告 10日目

演題：SDGsの実践 ～生ごみと放置竹林の問題に取り組む～

(一財) 静岡市環境公社 環境啓発顧問 沼上資源循環学習プラザ
重岡 廣男様

場所：沼上資源循環学習プラザ (しずもーる沼上) 3F

時間：9:15～10:30



講義のポイント

要点1：静岡市のごみの現状

- 家庭系可燃ごみ組成調査の結果では、生ごみが41%を占めている。
- 生ごみの背景には、食品ロスが関係している。(食品ロス：まだ食べられるのに捨てられている食べ物)
- 日本は食料自給率が低く多くの食品を輸入しているが、食品ロスが643万トンもある。

要点2：身近な自然環境の問題点 ⇒ 放置竹林が増えている (モウソウチク)

- 放置竹林が増えた原因として、プラスチック製品の普及、農山村を取り巻く社会環境の変化と高齢化などがある。
- 放置竹林内は蚊が発生しやすく、大型の野生動物も出没しやすくなる。野生動物についているマダニも危険である。
- 竹は50日～60日で10m～20mに伸長するが、根は浅いため大雨や台風などで土砂崩れを起こしやすい。

要点3：異なる社会問題に取り組む

- 身近な自然環境 (竹) を活用して生活上の廃棄物を資源化する。
- 竹を破砕機という機械で細かくし、竹粉にすることによって利用しやすくする。
- 生ごみと竹粉を利用し、堆肥にする。=自然環境に負荷の少ない生活ができる (循環型社会)

受講生の感想

- ◆生ごみと竹でたい肥になるということにとっても驚いた。生活の中から出る燃えるごみのどれも生活を見直せば減らせそうだと感じた。学校や地域など様々な場で学習を進めることが重要だと感じた。トマトジャムと竹粉+生ごみのたい肥が静岡市の名物となるようにしたい。
- ◆竹林対策を地域で実践してみたくなった。